

文教いしかわ

BUNKYO ISHIKAWA 石川県文教会館 2015.2 No.71

－ 特集 －

1頁：「肝心かなめの生涯学習」

石川県教育委員会事務局生涯学習課長 坂井 芳子 氏

2・3頁：「本県の児童生徒の学力向上の取組について」

石川県教育委員会事務局学校指導課課長補佐 松田 英樹 氏

4・5頁：インタビュー 「人」

宝生流能楽師 松田 若子 氏



「肝心かなめの生涯学習」

石川県教育委員会事務局生涯学習課長 坂井 芳子

「生涯学習って何ですか」と聞かれることがよくあります。趣味を楽しむ学習活動というイメージを持っている方が多いようですが、実は、社会教育や学校教育の他に家庭教育や個人の学習までを含む、人々の生涯にわたる学習のことを指しています。今、日本の平均寿命は、世界一の水準にありますから、人々がいくつになっても生き甲斐をもって生き生きと活躍できる社会になるために、様々な学びの機会を提供していくことは、大変重要なことだと考えています。

さて、近年の都市化、核家族化、少子高齢化など、社会の急激な変化により家庭教育をめぐる環境は大きく変化しました。かつて、子ども達は祖父母や大勢の兄弟に囲まれた家庭と、何かと世話をやいてくれるお節介おばさんがいる地域とに温かく見守られながら成長していました。地域も子育ての一端を担っていたのです。ところが、今では親と子の孤立した関係の中での子育てが多く見られるようになってしまったのです。子どもは、周囲の人たちとの様々な交流をおとし、社会の中で生き抜いていく力を身につけるのですが、現代社会においては、それすら難しくなってきたようです。

このような状況を受け、生涯学習課では、子ども達が地域の人々と触れ合い、ナナメの関係築くことができる交流体験活動や社会体験活動がもっともっと広まることを期待し、様々な事業を行っています。「グッドマナーキャンペーン」は、毎年皆様方に大変お世話になっていますが、その他にも地域の皆さんと一緒に公民館やお寺などに泊まりながら学校に通う「通学合宿」や、公民館同士が子どもをおとして交流する「子どもときめき交流体験事業」、「土曜日の教育活動推進事業」、「放課後子ども教室」などの事業です。



内灘町立鶴ヶ丘小学校の「肝心かなめの1年生塾」

また今年度、新しく家庭教育支援としてスタートしたのが、「肝心かなめの1年生塾開催支援事業」です。親が一人で悩まず自信を持って子育てできることが、子ども達の幸せで健やかな育ちにつながると考え、悪戦苦闘の末、実施に漕ぎ着

けることができました。この間、多くの先生方や教育振興会の皆様にお力添えをいただきました。この場をお借りしてお礼を申し上げたいと思います。

事業の内容ですが、まず、子どもの発達や脳科学などの科学的な根拠をもとに、子どもの成長段階における親の役割や、脳育てにとって重要な事柄についてわかりやすく説明した冊子を作成しました。この冊子を使った親学び講座「肝心かなめの1年生塾」は、小学校で行われる就学時健診や入学説明会などの機会を利用して、県内すべての小学校で開催していただきました。また、講座では、脳育ての専門家による研修を受けた校長先生・教頭先生、元校長先生などに講師になっていただきました。

学校からは、冊子の内容が具体的で分かりやすく、講座で説明するとき大変使い易かったとの感想をいただき、ほっと胸をなで下ろしているところです。ぜひ、各ご家庭で「早寝・早起き・朝ごはん」を実践し、子どもも大人も心身ともに健康で前向きに考えることができる脳内物質セロトニンを増やしていただきたいと願っています。

その他にも、近年話題になっているスマートフォンなどインターネット対応についても、子ども達を被害から守るために、小中高の保護者の皆さんに家庭でのルール作りや見守り、フィルタリングについて、わかりやすいパンフレット「親子のホットネット大作戦」を配付し、注意を呼びかけています。また併せて、「知っとくなくとく出前講座」や「ホットネット講座」を開催し、親学びの広がりを期待しているところです。

今後とも、県民の皆様的心豊かな学びが広がることを心から願い、生涯学習の振興に努めてまいりますと考えています。皆様のご協力をよろしくお願ひします。



生涯学習課内夏合宿in能登少年自然の家
自然の家は皆様のお越しをお待ちしています



本県の児童生徒の学力向上の取組について

石川県教育委員会事務局学校指導課

課長補佐 松田 英樹

1 全国学力・学習状況調査結果《教科に関する調査》

新聞やテレビ等で報道されているのでご存じの方も多いと思いますが、全国学力・学習状況調査が行われ、結果が公表されています。調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てることです。更に、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することも目的とされています。

本県はこれまで、小学校第6学年の国語A・B・算数A・B、中学校第3学年の国語A・B・数学A・B（A問題は主として「知識」に関する問題、B問題は主として「活用」に関する問題）の全てで全国平均を上回っています。各都道府県が学力向上に邁進している中、平成26年度、特に小学校算数Bで全国を5.4ポイント、小学校国語Bで7.2ポイントも上回る良好な結果が得られました。その他についても、安定した結果となっています。

全国学力・学習状況調査の出題傾向を見ると、国語では、多めの文章を読んだ後に条件に従って自分の考えを書くこと、様々な種類の文章を適切に関係付けて読むことなどが求められています。算数・数学においても、選んだ答えになる理由を言葉と数や式を使って書くこと、解決方法や判断の理由等を的確に説明することなどが求められています。これらの問題に対応できる力を育成するため、県としても学力向上の取組をより一層工夫する必要に迫られています。

2 本県の学力向上を支えてきた取組 〈いしかわ学びの指針12か条〉

- 1 根拠や筋道を明確に表現させる
- 2 物事を多様な観点から考察する力の育成に向け、多面的・多角的に思考させる
- 3 習得した知識や技能を活用・応用させる
- 4 「書くこと」「読むこと」を通して、考え方を身に付けさせる
- 5 相手を意識して、「話す力」「聞く力」を身に付けさせる
- 6 学び合い学習を充実させる
- 7 よりよい学習習慣・生活習慣を身に付けさせる
- 8 読書活動をより促進・充実させる
- 9 家族とのコミュニケーションを促進させる
- 10 社会への関心や将来の目標を持たせる
- 11 学校研究や授業研究を活性化して、指導力を高める
- 12 積極的に保護者や地域に向けて発信する

これまでも様々な取組が行われてきましたが、先に述べた結果については、「いしかわ学びの指針12か条」（これ以降、「12か条」）を踏まえ、県内の学校が学力向上の取組を着実に進めてきた成果が現れたものと思われます。この12か条というのは、平成19～21年度全国学力・学習状況調査において課題が見られた「活用力」（知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等）を高めるために、金沢大学と連携して県が平成23年に策定したものです。

そして、平成24～26年度の3年間、県内の小学校と中学校合わせて30校の推進校に12か条を踏まえた実践をしていただきました。推進校には、県教育委員会が県内の小中学校の研究主任等を集めて開催している学力向上フォーラムで活用力向上のための優れた取組を報告したり、各学校の研究発表会で研究の成果を発信したりしていただきました。そのおかげで、たとえ地域や校種が異なっていたとしても、教員同士が学力向上の在り方を協議できるまでに12か条が県内に浸透したことは、大変素晴らしいことです。

〈学力向上フォーラムの様子〉



更に良かったことは、市町教育委員会の指導のもと、推進校以外の学校においても12か条の取組が積極的に進められた点です。例えば、考えの根拠や筋道をしっかり書かせるためのノート指導や、子供達の様々な考えを引き出して思考を深める工夫など、活用力を高めるための基盤づくりや授業づくりが、県内で一体感を持って行われました。また各学校は、学力向上プログラム（県教育委員会が県内教員向けのウェブ上において提供する12か条を基にした指導資料で、学力調査結果の詳細な分析・考察や指導事例、評価問題等から成るもの）を十分活用し、指導改善に努めています。これらのことが、B問題の結果の伸びに結び付いているのではないかと考えられます。

3 全国学力・学習状況調査結果《質問紙調査》

12か条を中心とした学力向上の取組の好影響は、教科に関する調査結果ばかりでなく、併せて行われた質問紙調査の結果においても明らかになっています。「児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした」と肯定的に回答した学校は、小学校で93.3%、中学校で96.7%と高い割合となっており、中学校は全国平均を5.6ポイント上回っています。活用力を育成しようとする本県教員の意識の高まりが見て取れます。

その他、「授業の冒頭で目標を示す活動を計画的に取り入れたと思う」と肯定的に回答した学校も、小学校で97.8%、中学校で100%と高い割合となっており、中学校は全国平均を6.0ポイント上回っていますし、「授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたと思う」と肯定的に回答した学校も、小学校で97.8%、中学校で95.6%と高い割合となっており、小学校は全国平均を6.2ポイント、中学校は6.4ポイント上回っています。各学校において指導の工夫や改善が図られてきたことが分かります。

《学校質問紙調査》

項目		小学校			中学校		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
児童生徒の様々な考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問や指導をした	H26	93.3	93.9	↑ 96.7	91.1	△	
	H25	94.7	95.0		94.6	△	
普段の授業では、授業の冒頭で目標(めあて・ねらい)を示す活動を計画的に取り入れたと思う	H26	97.8	96.9	↑ 100.0	94.0	△	
	H25	95.9	96.5		96.8	△	
普段の授業では、授業の最後に学習したことを振り返る活動を計画的に取り入れたと思う	H26	97.8	91.6	△	↑ 95.6	△	
	H25	98.2	92.0	△	92.5	△	

↑は前年度より2ポイント以上高い、△は全国より2ポイント以上高い

《小学校の授業の様子》



児童生徒質問紙の関連する項目からは、児童生徒の学習に対する意識の高まりも見取れます。「授業のはじめに目標が示されていたと思う」、「授業の最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う」と肯定的に回答した児童生徒の割合は、全国平均を4.8ポイントから15.3ポイントも上回っています。県全体として、学力調査結果から児童生徒の学力の現状を把握・分析し、学力向上の取組の成果と課題を検証し、その改善を図るサイ

クルが徐々に確立されてきたことによって、指導の工夫や改善が進んできています。その結果、本県の子供達は学びを実感し、身に付けた知識や技能を活用しようとする気持ちを強めているものと思われます。

《児童生徒質問紙調査》

項目		小学校第6学年			中学校第3学年		
		本県(%)	全国(%)	比較	本県(%)	全国(%)	比較
普段の授業では、授業のはじめに、目標(めあて・ねらい)が示されていたと思う	H26	86.8	82.0	△	↑ 86.8	↑ 71.5	△
	H25	87.5	82.5	△	83.4	68.1	△
普段の授業では、授業の最後に、学習内容を振り返る活動をよく行っていたと思う	H26	80.6	71.9	△	↑ 65.9	↑ 53.3	△
	H25	84.7	76.7	△	62.1	51.3	△

↑は前年度より2ポイント以上高い、△は全国より2ポイント以上高い

《中学校の授業の様子》



4 これまでもこれから先も大切なこと

学力調査結果を踏まえ、各学校が児童生徒の学力向上のために解決すべき課題に応じてきめ細かいフォローに努めるとともに、それぞれの学校の状況に応じた到達目標をしっかりと定め、教科や学年を超えて意図的・計画的に学習指導を行うことは、これまでも大切でしたし、これから先も大切です。

また、これからの多様で変化の激しい社会の中、将来を担う子供達には、自立と協働を図るための能動的・主体的な力や、変化や新たな価値を主導・創造しイノベーションを実現する人材、グローバル社会において各分野を牽引できるような人材なども求められるようになります。社会を生き抜く力の育成や未来への飛躍を実現する人材の養成のためには、学校をはじめ社会全体で取り組んでいくこともますます必要になってきます。本県の子供達の学びを育む適切な指導と学びを支える良質な教育環境を提供できるよう、これまでも尽力されてきたわけですが、これから先も教職員、保護者、地域住民、教育委員会が、本県の子供達のために力を合わせることであればよいと思います。

※全国学力・学習状況調査の結果や学力向上の取組の詳細については、県教育委員会事務局学校指導課ウェブページを参照



宝生流能楽師 松田 若子さん

金沢市ご出身。宝生流能楽師故渡邊谷之助氏のご長女。6歳で能楽宝生流入門。東京藝術大学及び同大学院音楽研究科邦楽専攻能楽修士課程を修了。(公社)能楽協会・宝生会・金沢能楽会社員、(一社)日本能楽会社員。2014年重要無形文化財(総合指定)認定。「金沢能楽会定例能」や「観能の夕べ」等、数多くの舞台にご出演され、梅鶯会(金沢市加賀宝生子ども塾OB会)等の講師を務められるなど精力的にご活躍されていらっしゃる松田若子さんを石川県立能楽堂にたずね、能楽師への歩みや能楽への思いなどについてお話しを伺いました。

インタビューー 石川県文教会館 館長 近藤繁彦



◇昨年の出演舞台より◇
上段：能「鶴飼」シテ、下段：能「三輪」シテ

(写真提供：公益社団法人金沢能楽会)

館長 12月の金沢能楽会定例能で「三輪」のシテを演じられました、神の化身が大変神々しく感じられました。

松田 ありがとうございます。三輪のご神体にまつわるストーリーですが、所々に自然の摂理が取り入れられてもいて、能に取り上げられる題材から昔の人の知恵を感じます。

一 能楽師の家に生まれて

館長 能楽師の家に生まれた環境を子ども時代はどのように感じていらっしゃいましたか。

松田 家の2階に敷舞台があり、そこでお稽古が行われていました。昔は今より趣味で能を習う人が多く、週に何日もお稽古のお弟子さん達がいらっしゃるの、父や祖父は教える人、という感じでした。最初は祖父に教えてもらいましたがそんなに偉い先生と感じるわけでもなく、普通に面白い私のじいちゃんという感じでした。

祖父の稽古で特に印象に残っているのは、とても小さいうちは自分の足の上に私の足を乗せて、体を持って歩いて足の運びを覚えさせられたことや、また、しゃれっ気のある祖父だったので、気持ちが緩んで手元の構えなども緩むと「隙間からありこ(蟻)が入るぞ」と面白可笑しくわかりやすく言ってくれたことなどあります。

大きくなるにつれて、大半は父に教えてもらっていましたが、同じ家にいながら父はあまりにも稽古に没頭していたので、私は時々稽古中の父にお菓子をわざわざ持って行ったりしていました。日曜日など休みの日も定例会のような会がよくあったので一緒に遊びに出かけるようなことはなく、一緒になるのは能楽堂の舞台に出るとき、といった具合でした。

館長 幼い若子さんに対するお父様とおじいさまの思いはそれぞれおありだと思いますが、その辺りはいかがだったのでしょうか。

松田 私は女の子だけでも祖父にとっては孫に教えておくことで自分の芸の血脈が途絶えることのないようにとの願いがあったのではないのでしょうか。後がないので、純粋に仕込んでくれました。父にとっては女である私が舞台に上がって将来的にやっていくことには不安な側面もあったようです。でも、同年代の子どもがいなかったので、多くの役が私に回ってくるのですが、父は、役がつけば大人であれ、子どもであれ、それを全うし責任を果たさなければならぬということをよく言いました。子役であってもきちんと役をこなせなくてはけません。ですから小さい頃は「稽古してから遊べ」と稽古の方に誘導されていましたね。

館長 お父様の教え方は、どのようでしたか。叱られたことはありましたか。

松田 稽古に入ると、マスターさせなければならない所作や謡を繰り返し稽古します。繰り返しやらなければいけないことが多くあります。覚える内容が難しくなればなるほど、丁寧にわかりやすく愛情をもって、本人の力量相当とはいえずとことん教え込まれました。

子どもには口だけで説明するのではなく、時間が許すだけそのものズバリを体験させる、繰り返しさせる、わからないところはその場で教えるという基本中の基本ですね。父は、子どもだからこの程度というのではなく、本物の持つ力で伝えていくことを大切に、ダイレクトに伝わるものと考えていたと思います。

館長 子ども時代の舞台で特に思い出深いことは。

松田 短い稽古期間で本番を迎えてしまった時に間違えないように祖父と父がそれぞれの場所から連携して合図を送って、助けてくれたことがありました。今でも幕の隙間から見えた心配そうな祖父の顔が目には浮かびます。

また、父からは褒められることがあまりなく、できて当たり前という感じでした。お弟子さんには褒めても自分の子どもには言ってくれません。時々、別の先生と舞台をご一緒すると、ある東京の先生は終わった後にご褒美をくださり、それが新鮮で東京は都会だなと思った覚えがあります。いろいろな大先輩の方々が可愛がってくださいました。

館長 小さい子どもを舞台に向かわせるための、ご家族のサポートはいかがでしたか。

松田 隣県での舞台があるときは母と電車に乗って行くのですが、移動中におさらいするよう促してくれました。ですが、母も父も祖父も日頃から外間にとらわれず、自然に成長するのを待って大きく構えているようなところがありました。現場でサポートされる時も穏やかに接してくれているので私はがちがちに縛られた感じはありませんでした。非常に厳しすぎる方向ではなく、手綱を強めたり緩めたりしながら見守ってくれました。また、私の子ども時代は友達ともよく遊びましたし、週1回のお習字以外は時間の余裕が多くあったので、お稽古や舞台に時

間をかけて積み重ねることができました。

館長 ご家族のご配慮があって、のびのびと過ごされた感じですね。

松田 子どもに期待しすぎないのは大切な事ですね。追い詰められるといやになって逃げたくくなります。両親は根が呑気なのでちょうど良かったのかなと思います。



— 東京藝術大学邦楽科に進学して —

館長 東京藝術大学邦楽科に進まれた経緯は。

松田 中学校、高校と進むにつれて、中途半端ではなく、もっと上手になるにはどうしたらいいかと考えるようになりました。能を専門に学べる大学があると知り魅力を感じ、恵まれた環境の中で、芸も上達するのではないかと思います。

高校3年の時は、当時の共通一次試験受験のための5教科7科目の学科勉強と、実技試験のための謡と舞の稽古、それに加えて音楽理論の基礎知識の試験勉強もしていました。大変でしたが、その頃はエネルギーがあったのでしょうか。

館長 学生時代はいかがでしたか。

松田 合格したものの、他流派の方やすぐく積み上げてきた方が多くて不安も感じましたが、同年代ということで救われましたし、子どもの頃から頑張るといことは身につけていたので自分なりに努力していこうと前向きな気持ちでいました。元々、将来プロになろうと思って受験したわけではなかったのですが、やはり周囲の厳しさを目の当たりにするとこのままではいけないと思い、閉校時間いっぱいまで自習し、声が枯れるまで謡いました。休日でも学校の稽古場で舞や謡の自習をしていました。

学年が進み、学校の外でも実際の演能会の楽屋仕事することで舞台の作法や装束着けなどを学びました。それぞれの役に合わせた小道具や装束が紐一本にわたるまで細かく決まっていますが、紙に書いたマニュアルはありません。先輩から直接の指導がなされなくても、先輩の動きを見て覚え、一つ一つのことを身につけていくのです。

能は、自分一人ではできず仲間がいなくてできない舞台芸術です。全体のことをわきまえ和を重んじます。和楽という言葉もあります。和するため舞台は約束事に守られています。まずは自分のすべきことをきちんと勤めなければいけないという厳しさがああります。

— 能楽師となり、役を演じて —

館長 大学院修了後、金沢に戻られて金沢能楽会定例能などでご活躍されているわけですが、演じる時のご苦労や思いはいかがでしょう。

松田 役に相応しい声や体の構え、風情を出すように心がけていますが難しいですね。上演中はあえて何も考えず、稽古で積み上げてきたままです。自分で自分を信じるしかなく、祈るような気持ちでいます。

それぞれの役柄が違和感なく見えないと能は成立しないのですが、周りの囃子の音や謡が聞こえてくることでシーンが現され、自分もそのシーンの中に溶け込むことができます。例えばじっとしている場面でも、実はストーリーが綴られ登場人物の感情が動いているのです。そして、その後の所作や舞に繋がっていくんです。共演者とも互いの呼吸が合うのと合わないのとで差が出ますが、互いに信じ合うよりほかにありません。

能の源流「申楽」には神様の存在があって、役者に神懸かり、舞台上で「申し」体現しました。ですから役者は本来、体を貸しているようなものなのです。

能面については、舞台上で役者が使う時には、能面の持つ力

に助けられるというか、一体となって、もはや自分の意志で体を動かしているのではない、面の力で動いている感覚すら得ることがあります。

役者も観客も実際に見えるものからではなく心の眼を通して返ってくる発信があることが望ましいと思いますが、そういう世界に誘うという装置が能の中にはいっぱいあります。

能の中には、古い歴史の積み重ねで技術や表現、手法などいろいろな要素がいっぱい盛り込まれています。それを現代の方は難しいと感じられるかもしれません。例えば囃子についてはおそらく昔の人が無意識のうちに自然の音や原始の楽器の単純な音に心を揺さぶられた体験が源なのでしょう。それが積み重ねられ、リズム感を持つとずっと高度な音楽を奏でるということを見つけて、さらにいろいろバリエーションを拡げていったと思います。今は完成型なので逆に複雑に感じますが、能を囃子によってより楽しむための演出であり、物語に関わる意味のある旋律なども組み込まれているのです。

館長 ご結婚もされ、ご家庭を持ちながら活動をされているわけですが、両立等においてどのようにお考えでしょうか。

松田 家事や子育てなど初めてのことがばかりで、いろいろやってみますが壁にぶつかるといことも多々あります。ある時、病気になる入院をしたのですが、周りに迷惑をかけるほど無理をしてはいけなと痛感しました。両立という点では優先順位をつけていかないといけないと思います。

— 後進の育成、能楽へのさらなる思い —

館長 梅鶯会の子どもたちをはじめ、若手や後進の育成にあたっておられますが、どのような思いでご指導をなさっていますか。

松田 子どもたちにはきちんとしたものを教えていきたいですし、せっかく門を叩いてくれたのですからもっと興味を持つように、面白くなるように、ただ上手になるだけでなく、ほんとうに好きになってくれたらいいと思います。子ども一人一人の気持ちを気にかけながら少しずつ積み上げていきたいと思っています。

館長 現在、能楽に対峙する先生のご心境をお聞かせください。

松田 私は、まだ演じていない役が多く、新しい役を与えられたらマスターしていくことで修練されていくという側面が多くあります。以前演じた役も繰り返していく機会があると身につけてきます。次々と予定されることや新たな課題に真摯に向き合っていくことが大事だと思っています。

また、演能会を開くには、一人でできるものではなく、演じ手の他に支えてくださるいろいろなスタッフの方の力が必要です。人それぞれの力が合わさってこそできるものですし、人の関わりによって人も育てられていくものだと強く感じています。

心の持ち方として、ちょっとしたことにつまずいても動かない、ポジティブに気持ちを切り替える、逆境を得れば得るほど鍛えられると思うようにしています。

館長 先生が能楽を続けていくモチベーションや心の支えとはどんなことでしょうか。

松田 祖父や父だけでなく、これまで教えていただいた師匠の方々、私の歩いてきた道に付き添ってくださった方々の思いやその方々から教わったことが心の支えになっています。そして、伝えたいものを若い方々に返していかなければならないという思いがあります。

館長 本日は楽しく貴重な時間をいただきましてありがとうございました。今後、ますますのご活躍をお祈りしております。



事業報告

第27回いしかわ県民陶芸展 平成27年1月17日(土)～25日(日)

会場:石川県文教会館



展示会場の様子

今回から石川県文教会館を会場として開催しました第27回いしかわ県民陶芸展は、幼児の微笑ましい作品からご高齢の方の練り上げられた作品まで個性溢れるすばらしい作品の数々が並びました。作品数は、一般85点、青少年134点、招待作品3点の合計222点にのぼり、5歳から89歳までの幅広い年齢層に渡りました。

表彰式では、大賞の東利子様はじめ入賞者の皆様に表彰状が授与され、飯田雪峰審査員から「物語を感じる作品は心に響くものがあり、想像力をかき立てられる。作品と対話をするように創り出してほしい。」との講評を頂きました。その後、展示会場にて行われた同審査員による作品解説に多くの方が熱心に聴き入り、作品との出会いを楽しんでいらっしゃいました。

会期中1千名余りの方々にご鑑賞いただくことができ、盛況のうちに幕を閉じました。ご出品いただいた皆さま、ご来場いただいた皆さま、運営を支えてくださった皆さま、誠にありがとうございました。

入賞作品のご紹介

☆いしかわ県民陶芸大賞 (最高賞)

「夢の途中」

東 利子 (小松市)



審査員寸評 「最高の作品です。技術、発想、私共審査をしていて学ぶ事の多さを感じました。どんなメロディー。きっと人間の見たことのない動物達のステージまでも感じさせる作品です。」

☆石川県教育委員会賞 2点

「里山」 林 良茂 (金沢市)
審査員寸評 「作者の体内に流れている大自然のすばらしさを表現し、樹木達の命までも感ずる。技術的においても一夜で出来上がる技術ではない作品です。」



「羊の仲間たち」 宮野 克浩 (県立いしかわ特別支援学校)
審査員寸評 「最高にいい作品です。色もないのに色を感じ、羊たちが生きるために前進している姿で、移動中に行っている会話までも聞こえるね。」

☆文教会館理事長賞 10点

- ・「花器『寒流』」 義浦 平八 (金沢市)
- ・「137億年の奇跡 “文明慢心、自然回帰そして共存”」 宮崎 信一 (金沢市)
- ・「個性豊かにネ」 板谷 幸子 (能登町)
- ・「火猿の祈り」 広田 初枝 (能登町)
- ・「流影」 宮本 和代 (野々市市)
- ・「靴's」 谷猪 美月 (県立工業高等学校)
- ・「赤絵陶板時計『時空』」 県立加賀高等学校 共同作品
- ・「烏海青流」 武田 めぐみ (県立寺井高等学校)
- ・「手のアパート」 県立七尾特別支援学校 共同受賞
- ・「なんでもなる木」 若松 航 (加賀市立錦城小学校)



飯田雪峰審査員による作品解説

教育資料収集整理事業

教育資料ロビー展

「文教会館所蔵 小学校教科書のあゆみ展～明治から平成、学びの原点～」

「いしかわ教育ウィーク」関連行事

会期：11月1日(土)～7日(金)

今回のロビー展では、当財団が所蔵する明治期からの教科書約5,700点のうち、学びの原点ともいえる小学校の教科書880点余りを選び、明治・大正・昭和・平成と時代毎に展示しました。期間中多くの方が熱心にご覧になっていました。それぞれの時代の教育活動の一端を知っていただくとともに本事業への関心と理解を高める機会となりました。

★当館所蔵の教育資料は閲覧ができ、学校等への貸し出しも行っております。事前に文教会館TEL.076-262-7311までお問い合わせください。蔵書リストは、当館ホームページからご覧いただけます。



教育史セミナー開催

演題「特別支援教育の心」



教育ウィーク中の11月6日(木)、当館401会議室において、岩田廣美氏(前社会福祉法人「けやき野苑」理事長、元石川県立明和養護学校長)にご講演いただきました。

岩田先生は長きに渡り特別支援教育の現場をリードされ、地域の授産施設設立にも精力的に携わってこられました。豊富で具体的な教育実践をもとに共生社会の形成に向けて一人一人の心に寄り添い、一人一人が認められる場づくり、真心をもった学校教育や授産施設経営の大切さをお話いただきました。

岩田先生の教育者としての強く深い信条や篤く真摯な情熱、姿勢などに参加者一同大きな感銘を受け、これからの教育や人生について貴重な示唆をいただくことができました。

事業紹介

教育資料収集整理事業

文教会館教育資料ロビー展のご案内

当財団では教科書や教育用具、教育文献等、県内の貴重な教育資料を収集し、保管や展示を行っています。その一環として年間を通じて当館の1階ロビーにおいて、収集資料の紹介や県立学校の特色ある教育活動の紹介をしています。また、特別展としてタイムリーに小学校はじめ教育関係団体の作品展や写真展、活動紹介も行っています。2015年度は23回のロビー展と県立学校38校の出演を予定しています。当館のロビー展が県民の皆様にとって教育に対して関心と理解を深める機会となれば幸いです。

いつでもお気軽にお立ち寄りください。



文教会館収蔵資料公開展
(昭和60年度全国高等学校総合体育大会関係資料)



特色ある学校の紹介
(県立寺井高等学校)



特色ある学校の紹介
(県立明和特別支援学校)



特色ある学校の紹介
(県立金沢北陵高等学校)



特別展
(金沢市立浅野川小学校作品展)

★ロビー展に出展を希望される学校や団体は、文教会館までお問い合わせください。
TEL 076-262-7311

★これまでのロビー展の様子は当館ホームページからご覧いただけます。

教育資料ロビー展

喫茶コーナーからのお知らせ

会議室へコーヒー等をお届けします。お気軽にご注文ください。(ケーキは2日前までに)

2015年度 教育資料ロビー展 (予定)

場所：文教会館1階ロビー 無料

No	期 間	展 示 名	内 容
98	3 / 27(金) ~ 4 / 8(木)	文教会館収蔵資料公開展	平成26年度収集品の紹介
99	4 / 11(土) ~ 29(木)	学校の一年をふり返る	平成26年度の県立学校等の刊行物紹介
5月~2月 特色ある学校の活動 (38校予定)			
100	5 / 2(土) ~ 18(月)	県立金沢二水高等学校	二水高校紹介
		県立羽咋工業高等学校	学校活動紹介
101	5 / 22(金) ~ 6 / 7(日)	県立加賀聖城高等学校	錦城山プロジェクト
		県立羽咋高等学校	羽咋高校紹介
102	6 / 11(木) ~ 23(火)	県立金沢泉丘高等学校	AIプロジェクト(課題研究)の研究結果ポスター展
103	6 / 27(土) ~ 7 / 12(日)	県立工業高等学校	デザイン科テキストスタイル工学科実習作品展
104	7 / 15(木) ~ 27(月)	県立金沢桜丘高等学校	金沢桜丘高校-新校舎完成-
105	7 / 30(木) ~ 8 / 10(月)	県立内灘高等学校	内灘高校30年の歩み
		県立飯田高等学校	躍動する飯田高校
106	8 / 13(木) ~ 25(火)	県立鶴来高等学校	鶴来高校の1年
		県立門前高等学校	学校紹介
		県立医王特別支援学校	学校紹介
107	8 / 28(金) ~ 9 / 9(水)	県立田鶴浜高等学校	看護師・介護福祉士をめざす田鶴浜高校
		県立七尾特別支援学校	七尾特別支援学校紹介
108	9 / 12(土) ~ 23(木)	県立津幡高等学校	学校生活の様子
		県立宝達高等学校	宝達(たからたち)発信
		県立穴水高等学校	本校の活動紹介及び「のとてまり」について
109	9 / 26(土) ~ 10 / 7(水)	県立加賀高等学校	本校の取り組み
		県立盲学校	盲学校紹介
110	10 / 10(土) ~ 26(月)	県立小松工業高等学校	小松工業高校の活動
		県立金沢西高等学校	西高での高校生活
111	11 / 1(日) ~ 8(日)	「いしかわ教育ウィーク」関連行事	
112	11 / 11(木) ~ 23(月)	県立大聖寺実業高等学校	大聖寺実業高校の活動
		県立いしかわ特別支援学校	いしかわ特別支援学校10年の歩み
113	11 / 26(木) ~ 12 / 7(月)	県立金沢伏見高等学校	本校50年の歩み
		県立能登高等学校	能登高だより
		県立明和特別支援学校	明和特別支援学校の紹介
114	12 / 10(木) ~ 23(木)	県立小松商業高等学校	学校紹介と商品開発
		県立志賀高等学校	青春全開志賀高校
		県立七尾高等学校	・いしかわニュース・ハイスクール 他
115	1 / 6(木) ~ 17(日)	県立金沢向陽高等学校	学校紹介
		県立錦城特別支援学校	錦城特別支援学校作品展
116	1 / 20(木) ~ 31(日)	県立寺井高等学校	寺井高校紹介
		県立輪島高等学校	学校紹介
117	2 / 3(木) ~ 14(日)	県立七尾特別支援学校輪島分校	学校紹介
		県立小松明峰高等学校	明峰歳時記
118	2 / 17(木) ~ 29(月)	県立金沢北陵高等学校	岩手県立宮古工業高等学校との交流
		県立小松特別支援学校	制作作品展
119	3 / 3(木) ~ 13(日)	県立小松潮瀬特別支援学校	石川県立小松潮瀬特別支援学校の紹介
		文教会館収蔵資料公開展	文教会館収蔵品より
120	3 / 16(木) ~ 27(日)	平成27年度文教会館のあゆみ	自主事業の写真展示 等

2015年度 文教国際理解講座のご案内

—ネイティブスピーカーによる
簡単な語学講座です—

講座	内容	曜日	講座時間 (100分)
英米文化 初級	挨拶程度の会話をしよう (英検3級程度)	木 木	10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化 準中級	英語で簡単な会話ができるように (英検準2級程度)	火 水 水 木	18:30~20:10 10:00~11:40 18:30~20:10 10:00~11:40
英米文化 中級	英語で日常の会話ができるように (英検2級程度)	火 水 木	10:00~11:40 10:00~11:40 18:30~20:10
英米文化 上級	日本語同様に会話ができるように (英検準1級程度)	火	18:30~20:10
韓国文化 初級	韓国文化やハングルに親しむ	水	19:00~20:40
☆新規開設 中国文化 初級	中国語(標準語)や中国の文化に 親しむ	水	19:00~20:40

実施期間：2015年5月7日(木)
～2016年2月25日(木)
対象：教職員 一般 高校生
定員：1講座20名
受講料：年額36,000円(年35回)
(教材は実費負担)
応募期間：2015年3月10日(火)
～4月10日(金)
※応募期間が過ぎてても定員に空きのある講座には途中入会ができます。



英米文化初級(午前クラス) クリスマスクッキング

外国の言葉や文化を学ぶひとときを
ぜひお楽しみください!



你好(ニーハオ:こん
には)!早上好(ザオ
シャンハオ:おはよう
ございます)!
楽しく中国語を学びま
しょう!

申込方法：文教会館までお問い合わせください。
※当館のホームページから申込書をダウンロード
できます。

文教会館国際理解講座

2015年度 文教アートウェイブのご案内

—演劇・演奏会・リサイタル等にご利用ください—

文教アートウェイブ事業では、地域文化の振興を図ることを目的に、演劇や演奏会等の公演を希望される方に利用料と冷暖房費無料でホールをお貸ししています(照明設備費等有料)。リハーサルを含む3日間(連続)までご利用できます。公演ご希望の方は文教会館事業課までお問い合わせの上、お申し込みください。

【2016年度 公演募集期間】 平成27年5月1日～9月30日

<今後の文教アートウェイブ公演予定>

第2回いしかわフルトフェスティバル ◇入場料：1,000円	3月22日(日) 14:00～(開場13:30)
石川県立金沢伏見高等学校吹奏楽部定期演奏会 ◇入場料：無料	3月27日(金) 17:00～(開場16:30)
第1回水星・音ぼらぁと・Voce Libera 合同演奏会 ◇入場料：500円(小学生以下無料)	6月7日(日) 14:00～(開場13:30)
金沢高等学校 合同演奏会 サマーコンサート ◇入場料：無料	7月18日(土) 18:00～(開場17:30)
金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマスコンサート ◇入場料：無料	12月20日(日) 17:30～(開場17:00)
バレエの街コンサート2016 ◇入場料：一般2,000円 中学生以下1,000円	平成28年1月17日(日) 14:00～(開場13:30)



金沢桜丘高校吹奏楽部クリスマスコンサート



バレエの街コンサート2015

今年も素晴らしい公演を
お届けします。皆さま、
お誘い合わせの上、ぜひ
ご来場ください!

★公演の日時等が変更になる場合がございます。

★応募や公演予定の詳細は、当館ホームページからご覧になれます。公演申込書もダウンロードできます。

2015年度 「教育文化研究会」募集のご案内

対象：教職員、一般

	研究会名	定員	年会費	内容	日時
I	もっと知りたいアジア	10	5,500円 全11回	地理、歴史、時事問題、料理等を楽しく学習する	第2土曜日 14:00~16:00
II	源氏物語を楽しむ	10	11,000円 全22回	『源氏物語』の原文等、様々な文献にあたり 古典の奥深さを味わう	第2・4土曜日 10:00~12:00
III	茶道入門教室	10	11,000円 全22回	簡単なお手前、作法を1年間で学ぶ	第1・3月曜日 12:00~16:00
IV	中世芸能研究会	7	18,000円 全36回	初心者謡曲入門	第1・2・3火曜日 18:00~19:00
V	近世芸能研究会	15	15,000円 全30回	初心者詩吟入門	第1・2・3木曜日 18:00~19:00

※文教国際理解講座・文教アートウェイブ・教育文化研究会は、「いしかわ県民大校」の連携講座です。

